

## 会 議 録

会議の名称及び会議の回	キャリア教育推進協議会 平成 29 年度 第 2 回
開催日時	平成 30 年 2 月 22 日 (木) 午後 4 時 00 分～5 時 30 分
開催場所	飯田文化会館 会議室 2
出席委員氏名	代田昭久会長 (教育長)、柴田忠昭副会長 (飯田商工会議所会頭) [代理]、小澤英文委員 (飯田職業安定協会)、勅使河原由生妃委員 (飯田青年会議所) [代理]、今村幸子委員 (社会教育委員)、佐々木祥二委員 (飯田市公民館)、桑田薫委員 (飯田市 P T A 連合会)、関島香津美委員 (飯田市 P T A 連合会)、熊谷恒雄委員 (飯田市校長会)、三浦伸一 (教育次長)、北原康彦 (学校教育課長)、中井文彦 (学校教育専門幹) 小林弘 (工業課長) [代理]
出席事務局職員	北澤俊規 (生涯学習・スポーツ課長)、近藤善彦 (地育力向上係長)、今村浩二 (地育力向上係)、熊谷芳巳 (地育力向上係)、田中清一 (教育指導主事)、松尾裕一郎 (学務係)、氏原理恵子 (学習支援係長)
会議の概要	以下のとおり

### 1 開会【生涯学習・スポーツ課長】

ただいまから、キャリア教育推進協議会を始めさせていただきます。

### 2 あいさつ【会長】

皆さん、こんにちは。本日はお忙しいところ第 2 回キャリア教育推進協議会にお集まりいただきありがとうございます。日頃より飯田市の子どもたちのためにそれぞれのお立場でご尽力いただいておりますことに感謝申し上げます。現在、冬季オリンピックがたけなわです。日本人の活躍が連日取り上げられ素晴らしいことだと思えます。とりわけ小平奈緒選手は長野県の生んだスーパースターで誇らしく思います。小平選手は相澤病院に所属しています。ちょうど 10 年前、リーマンショックだったため、大学卒業後スポンサーがつかず、就職浪人になってしまうところでしたが、相澤理事長が名乗り出て支援をしました。当時のインタビュー記事には、「長野の人が長野で五輪を目指したいと思うなら、私はそれを応援する。周囲からは広告価値を問われるが、病院の名前が出たからといって患者さんがくるわけではない。地域が盛り上がり仲間意識が持てることが重要だと思う。」とご発言されています。1 千万円の支援をしているようですが、小平さんが大活躍して相澤病院が有名になることよりも、地域の若者を育てたいという情熱でスタートした事業だったというものでした。

今、飯田市の子どもたちは企業の皆さんやいろいろな方々の支援があつて育っています。また、地域の子どもは地域で育てようとコミュニティスクールを導入しています。「良い地域が良い学校を作る。良い学校が良い地域を作る。」という好循環が生まれるよう学校経営に参画してほしいとするものです。キャリア教育もその大きな理念の中で地域の方々に生きる力を育てていただいていると思います。金メダリストを育成するわけではありませんが、子どもたちが立派な成人とな

って活躍するため同じような価値をいただいていると思います。

本日は、今年度の報告がメインになりますが、意見交換でご発言いただき、いただいたご意見を来年度以降に活かしていきたいと思いますので、有意義な時間になるようにお願いします。

### 3 協議【進行：会長】

#### (1) 平成29年度キャリア教育の取り組みについて

- 「飯田型キャリア教育」の取り組みのまとめ
- 中学校職場体験学習の実施状況
  - ・業種毎の受入事業所の状況
  - ・職場体験学習に関するアンケートのまとめ
- 第12回キャリア教育推進フォーラムのまとめ  
(事務局より説明) …資料1、資料2、資料3

#### (2) 平成30年度のキャリア教育の取り組みについて

- 次年度の「飯田型キャリア教育」について
- 各学校の来年度の中学校職場体験の予定について  
(事務局より説明) …資料4、資料5

(会長)

今年度の取り組みと来年度の方向性について説明がありました。委員の皆さんからご意見等ございましたら発言をお願いします。

(委員A)

職場体験学習のあり方について、学校側、受入れ側、お願いする側でつける力を明確に進めることが必要だと思います。学校では、小中一貫の中で生き方教育としてキャリア教育に取り組んでいます。キャリア教育が職業選択的な考えでみられている方もいると思います。生き方を学んでいることを保護者や地域の方それぞれが共通理解の上で進むといいなと思います。

(委員B)

保護者は、職場体験の目的等を充分理解していないと思います。学校に決められた職場に行くだけという認識となっています。そういった目的を理解してもらうためにも、キャリア教育推進フォーラムにもっと親が参加してらえるといいと思いました。小学生の工夫した発表や、高校生になるとこんなにも大人っぽいことを考えているんだということも分かりました。

(委員C)

丸山小では、1日だけ親の職場体験を行っています。目的についての理解は十分ではないかもしれませんが、がんばっている親の姿をみせてあげられたのはありがたいことで、子どもにとってもよい体験ができたと思います。フォーラムでは、中学生から働くことについていろいろな意

見がでていましたが、自分の子どもの頃は、そのことすら考える機会がなかったので、将来の目標を考えるチャンスを与えてもらっているということはいいことだと思いました。飯田は7割が市外へ出て行って3割くらいしか戻ってこないと言われていました。グローバルを知れば知るほど羽ばたいて行ってしまいそうで、ローカルの部分を大きくして飯田での選択肢が広がるようにリニアの時代に向けて用意してあげられるといいなと思いました。

(委員 D)

受入れ企業も趣旨がまだ明確になっていないと思います。職場も理解できるような機会があるとよいと思います。

(委員 E)

人手不足もある中、若者が帰ってこないという現状です。地元の企業で、働くことの楽しさなどを学ぶことは10年後の担い手の育成、人材の誘導にとっても有意義なものになると思います。企業側も頼まれたからただ受入れするのではなく、目的を理解したうえで受け入れたいと思います。そうしたところから将来につながるものになればいいと思います。

(委員 F)

少子化で核家族化が進む中、多様な体験や人間関係により豊かな子を育むことにつながることからキャリア教育は重要だと思います。10年が経過しマニュアル化しているのであれば、ここで原点に戻って、子どもたちや保護者、事業所などに理解してもらうための啓発用リーフレットなど点検する必要があると思います。キャリア教育は学校だけでなく、それぞれの場所で役割があつてご指導いただくことが子どもたちの学びにつながります。

(委員 A)

第1回キャリア教育推進協議会の資料には、キャリア教育の趣旨、つける力などがしっかり明記されています。これをもとにリーフレットを作ってください、保護者や企業、子どもたちがこれをもとにねらいの共通理解をすることが大事です。以前、子どもが職場体験に行き、そこでは草むしりをしたそうです。私はいいことをしたなと思いました。子どもはそうは思っていませんでした。そういう企業の対応から子どもたちが働くということを学ぶ共通基盤を作っておくことで、企業も受入れやすいし、子どもたちもその覚悟で職場体験に行けると思います。

(会長)

キャリア教育をなぜ取り組むのかということ、「学校、企業、保護者へ共通認識を持ってもらう手立てが必要」というより良くするための提案をいただきました。

LG 飯田教育をキャリア教育の中核に据えて取り組むということについてはいかがでしょうか。

(委員 G)

企業側も「世界につながるものを作っている」、「誇りを持ってやっている」ということは子ど

もたちに伝える事ができると思います。

(委員 D)

いざ就職となると、この地域での就職率は低いです。企業側は少しでも地元で働いてほしいと思っています。そのためにも、小中9年間の計画プラス高校の3年間も大事になると思います。小中高連携をより一層進めてほしいと思います。

(委員 H)

自分の育ったふるさとの良さやすばらしさに気づいてもらうことが必要で、公民館でもそこが大事と考えています。そのために地域の伝統文化の良さを伝えていきたいと思っています。地域の良さを知ってもらうことが地域に残ってもらうことにつながると思います。

(委員 I)

企業の方は地元で就職してほしいという思いが強いことを感じました。都会に行かなくても空気や人もすばらしい、飯田にはこんなにもすごい企業があるということ子どもたちにも知ってもらえるような方法があると良いと思います。

(会長)

職場体験だけだとなかなか伝わらないこともあるかもしれませんが、世界に通用する部品を作っているとか、企業の方の思いを伝える機会など、企業をアピールする機会は大事だと思います。

(委員 A)

小中9年間以降の部分で、飯田 OIDE 長姫高校や下伊那農業高校は地域へ出て学んでいます。義務教育プラス高校という流れはできつつあると感じています。本当は、幼稚園・保育園、さらには大学まで見通せるようなものがあるといいかなと思います。

(事務局)

これまでの意見や各職場からのアンケートを見ると、ややルーティン化している職場体験学習を正しい意味で学習にしていく努力が学校に求められていると思います。そこが十全にできていないことが職場からのアンケートにも寄せられているようなミスマッチがうまれていると思います。つまり、教師の働きかけの質が求められていると思います。また、高校生以上が行うインターンシップとは違い、職業訓練ではなく、職場体験学習というところに理由があると思います。未完成度の高い小中学生の体験なので、挨拶や返事ができないといった完成品でない子どもたちだということをご理解していただかないと、ここでもミスマッチがでてしまいます。社会総ぐるみで子どもを育てるということは、どれだけ大めにみるかという覚悟をみんなで持ち合うことだと思います。職場体験だけでは、ただ体験で、それを経験にしていくところに学習の深まりがあります。これだけシステムが整っている地区は他にはないので、飯田の義務教育に携わっている先生には、学習をいかに経験にしていく、いわゆる王道の部分、研修会や、キャリア教育研

究委員会を母体に各校に働きかけていけるようにしなければいけないと思います。体験から気づきや発見を持たせて生き方を学ぶという学習過程をどう作るかを私も考えていきたいと思っています。

#### (事務局)

体験を経験にするための学習の深まりを私たち大人がサポートしないといけないことを改めて感じました。ただただ体験させるだけでなく、そこで働いている方の想いや姿を見て、学習を深めていくことを保護者も先生も教育委員会も共通認識しておくことは大事だと思いました。6月のキャリア教育推進協議会で示されているつけない力とはどういうことか話したことがなかったので、改めて検討したいと思いました。高校の制度改革や大学の入試改革が行われ、高校生の学びも単なる知識の蓄積ではなく体験を経験にしていく学びを深めることが求められていて、まさにキャリア教育につながっていると思いました。小中学校だけでなく高校につなげていく必要を改めて感じました。飯田 OIDE 長姫高校の地域人教育は公民館が関わっていますが、これを他校へも水平展開していきたいと考えています。

#### (委員 J)

このシステムがあることは先生にとってありがたいことだと思います。職場体験学習は、なりたい職業を体験するのではなく、働くことを通して何を学ぶかが大事で、そこから生き方を学ぶことを先生方が子どもたちとしっかり向き合って職場に送り出し、戻ってからの学習が大事だと思いました。もう一つは完成した子どもたちではないということと、学校、保護者、職場の方にも何を学ぶかという意味を共通理解することが、次のいい職場体験学習・キャリア教育になっていくと思いました。

#### (会長)

10年経過し、キャリア教育を次の舞台に持っていくタイミングと感じました。そのために今日は有意義な話し合いになりました。いただいた意見は多かれ少なかれ取り組んでいきたいと思っています。私の経験を少しお話します。民間で会社の経営をしていた頃、学校の職場体験の受け入れをしていました。地方の子どもがネットで調べて、自分たちでアプローチして、修学旅行の半日を職場体験に当てるケースが多くありました。子どもが来ると、業務は止まるし、わがままを言うし、本当に大変でしたが、一生懸命やると子どもたちが変わっていき、お礼状がくるととても嬉しい思いをしました。企業側にもどういうメリットがあるか提示しないと疲れてしまいます。ミスマッチやギャップがあるところは、飯田型キャリア教育には他地域にはないプラットフォームがあるので、相互理解が進んで、満足できる職場体験につながればと思います。

#### 4 閉会【生涯学習・スポーツ課長】

今日は貴重なご意見をありがとうございました。以上を持ちまして、キャリア教育推進協議会を終了とさせていただきます。

